

# 行政研究所

## ガイドブック

入室試験から公務員試験合格・内定まで

国家総合職・一般職、地方上級等  
各種公務員採用試験対応



2024年度版

Gateway to Public Service

## 行研へのいざない ～「縁の下の力持ち」の矜持～

国家試験指導センター行政研究所  
所長 西川 伸一  
(政治経済学部教授)

「縁の下の力持ち」という言葉があります。国語辞典を引くと「人に知られないが、陰で努力・苦勞すること。また、その人」と出てきます(『広辞苑』)。「縁の下」と聞いても、マンションなどそれがない家も多いためイメージがわからないかもしれません。「縁側のゆかした」(『同』)のことです。アニメの「サザエさん」をみてください。猫のタマがよく縁の下に隠れています。

さて、2024年はまったく不幸なことに能登半島地震で幕を開けました。1月31日時点の集計で238人もの尊い命が犠牲になりました。この原稿を書いている発災から1か月が経った時点でも、約1万4千人余りが避難所での生活を余儀なくされています。ようやく輪島市で応急仮設住宅への入居がはじまりました。彼らをはじめとする被災者を支え、復旧・復興の中軸を担えるのは公務員をおいてほかにはいません。国、石川県、さらに自らも被災者である被災自治体の職員が全力でこれに取り組んでいます。このことは公務員が「縁の下の力持ち」の役割を果たしていることのほんの一例です。

仕事ぶりをほめられるわけでもなく、「人知れず微笑まん」をプライドにする公務員という職業を私は尊敬しています。こうした公務員の仕事に魅力を感じる学生は、ぜひ私たち行政研究所(略称・行研ぎょうけん)の門を叩いてください。行研は公務員試験合格を目指す学生たちに、勉強する場所とプロ講師による充実した授業を提供しています。そこには、同じ志を持つ多くの仲間が集ります。

とりわけ、みなさんに挑戦してほしいのは、最難関の国家公務員採用総合職試験です。よく耳にする「キャリア官僚」とは、この試験に合格して採用された国家公務員をさします。国の行政の中枢に多くの明治大学卒業生が入ることで、この国はもっとよくなると私は確信しています。そしてうれしいことに、私の夢は実現に近づいています。2023年度の国家公務員総合職試験で、明治大学は過去最高の49人の合格者を輩出しました。うち30人は行研所属の学生です。49人という合格者数は全国の大学で12位、私立大学に限れば5位にランクされます。まだまだ「伸びしろ」はあります。

「叩けよさらば開かれん」です。すぐに行動を起こして、行研であなたの近未来を具体的に設計してみませんか。

2024年4月1日

# 行政研究所の歴史と目的

## 公務員を志す明大生のために

行政研究所は、1957年（昭和32年）故弓家七郎名誉教授（当時政治経済学部長）により明治大学行政研究指導室として設立されました。当時の目的は、「国家公務員上級試験および地方公務員を目指す特別研究生に対する指導を行い、併せて母校明治大学の学風振興に寄与しようとする事」であり、初代特別研究生は約10名でした。それ以後、時代を経るとともに組織は様々に変化しながら、その設立以来、多くの有為な人材を輩出してきました。

設立から50年経った2007年（平成19年）に、大学に新たに設置された国家試験指導センターの傘下に位置づけ直され、現在に至っています。現在では、目標を「一人でも多くの国家公務員採用総合職試験最終合格者を輩出すること」としています。

現在、公務員は学生に根強い人気がある職種の1つです。そして、公務員になるためには「公務員試験」を突破する必要があります。しかしながら、この「公務員試験」は大学入学試験以上の範囲と知識量を求められるものです。すなわち、ただがむしゃらに勉強しているだけでは合格することが難しい試験と言わざるを得ません。そのような「公務員試験」の対策として、民間予備校、独学、あるいは大学が設置している対策講座などの手段が考えられます。しかし、いずれにおいても費用や情報量、精神的サポートなど、学生にとっての不安要素は尽きません。

行政研究所は、「公務員を志す明大生のための明治大学の組織」です。皆さんが社会にとって有為な“良き公務員”として成長できるように、学業面に限らずあらゆる面で最大限のサポートをすることをお約束します。



和泉分室のある和泉リエゾン棟



駿河台本室のある猿楽町校舎

# 行政研究所のここがすごい！

## 1. 格安の費用

(消費税込み)

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
行政研究所	6.6万円	6.6万円	13.2万円	6.6万円	33万円 <sup>(※1)</sup>
民間予備校		52万円 <sup>(※2)</sup>			52万円

※1：4年間に在籍した場合の受講料及び入室利用料の合計

※2：一般的といわれている2年コースの割引後価格

行政研究所と民間予備校の受講料を比較すると上表のようになります。このように行政研究所では、民間予備校に比べて格安の受講料で講座を受講できます。

## 2. 手厚いサポート体制

行政研究所の講師陣は、各予備校のトップ講師によって構成されています。また、講義以外の論文添削や面接対策などの受験指導に追加料金がかかりません。さらに、行政研出身の先輩公務員による実践的な面接指導が受けられるというメリットがあります。これらの点は、予備校との最大の違いであると同時に、最高のサポートと言えるでしょう。

## 3. 仲間の存在

行政研究所には同じ目標を持つ仲間がいます。また、夢を叶え、第一線で活躍している卒業生が多数います。かつて同じ立場であったOB・OGは面接指導など様々な場面でよき相談相手になってくれます。仲間や先輩の存在は、公務員試験を個人戦で戦う民間予備校とは異なり、とても心強い存在と言えます。

## 4. 専用自習室がある！

和泉キャンパスには自習室とロッカーが、駿河台キャンパスには原則、各室生に専用の自習机とロッカーが用意されています。これにより普段から快適な環境で集中して勉強することができます。また、両キャンパスでは学内Wi-Fiを利用できるため、試験や説明会等の様々な情報を調べることも可能です。

## 5. 受験専門雑誌や参考図書を利用できる！

公務員試験の勉強時に用いる教科書や参考書が事務室に用意されており、自由に利用することができます(貸出制)。通常、教科書や参考書と呼ばれる基本書の多くは高価なため、勉強面のみならず、費用面でもメリットといえます。

## 6. 先輩から情報を教えてもらえる！

タテの繋がりは行政研究所の強みです。毎年秋には、就職の決まった4年生による講演会や追い出しコンパなど様々なイベントが開催され、それらを通じて先輩と関わるすることができます。また、OB・OGが非常に熱心に後輩指導をしてくれます。公務員試験は情報戦の側面もあり、OB・OGから多くの情報を得られることは大きなメリットになります。

## 7. 成績優秀者に対して奨学奨励金が支給される！

行政研究所では、1・2年生を対象とした模擬試験が毎年冬に実施されています。1年間の学習の目標や理解度チェックの材料として模擬試験は有効です。この試験で優秀な成績を取った室生に対しては奨学奨励金が支給されます。

## 8. 国家総合職試験最終合格者には報奨金が授与される！

行政研究所の大目標は、国家総合職試験の最終合格者の輩出です。この国家総合職試験に1次合格および最終合格した室生には報奨金が授与されます。倍率も難易度も高い試験ですが、室生になったら、ぜひ国家総合職試験の最終合格を目指してください。

# 主な年間行事

	入室試験	室生となるための第一歩です
春学期	春学期総会 OB・OGによる講演会、懇親会	様々な職種の先輩方が、各種試験について話してくれます 合宿などイベントの説明をします
	夏合宿(2年生対象) 面接対策	夏休み中に合宿を行います 講師も同行し、面接対策を行います
	国家公務員採用総合職試験 合格者報奨金授与式	学長から表彰される晴れの舞台です
秋学期	OB・OG 総会(隔年)	様々な職種の先輩に会える機会です
	秋学期総会 4年生による合格体験報告、懇親会	新幹部を決定します 進路の決まった4年生による講演があります
	模擬試験(1・2年生対象)	4年生成成の模擬試験です 成績優秀者には奨学奨励金の支給があります
	政策研究ゼミ	国家総合職志望者向けの政策討論会です
	試験直前対策(3・4年生)	講義の他に論文指導、面接対策を随時行います

※その他、学年ごとの懇親会や過去問を用いた自主模擬試験など、室生自らが計画するイベントもあります。

行政研究所には、年間を通して様々なイベントがあります。このようなイベントを多く用意している最大の目的は、タテの繋がりとヨコの繋がりを深めることです。公務員試験を乗り切る上で、互いに刺激し合い、協力できる仲間が必要不可欠です。そのため、これらのイベントで多くの友人を作ることが合格に近づく一歩であるといえます。また、室生の提案により、新たなイベントを作ることも可能です。



夏合宿  
(みんなでバーベキュー)



2023年度  
国家公務員採用総合職試験 合格者  
報奨金授与式  
(リバティタワー23階岸本辰雄ホール)

# カリキュラム

例. 2023年度のカリキュラム

	月	火	水	木	金	土
1年生 ・ 2年生	17:30~20:30 行政法 (秋学期)	17:30~20:30 憲法 (春学期) 民法 (秋学期)	17:30~20:30 経済学 (ミクロ・マクロ) (通年)	17:30~20:30 文章理解 (秋学期中1回)	17:30~20:30 数的処理 (通年) 政治学 (秋学期)	
3年生	17:30~20:30 法律系科目 (共通)	17:30~20:30 数的処理 文章理解 教養論文 (共通)	17:30~20:30 法律系科目 (共通)	17:30~20:30 行政系科目 (共通)	17:30~20:30 経済系科目 (共通)	13:00~17:30 経済系科目 法律系科目 行政系科目 (国家総合職)

※経済系科目：経済学・財政学・経済事情など  
 法律系科目：憲法・民法・行政法など  
 行政系科目：政治学・行政学・社会学・国際関係など  
 共 通：国家総合職、一般職、地方上級共通科目

和泉キャンパスでは、1・2年生の合同講義となっています。これは、1・2年次から余裕を持たせた勉強を行なうことに加えて、それ以外の時間でいわゆる面接試験の“ネタ”になるような経験してほしいという配慮からです。一般的に受験生は面接における“ネタ作り”に苦勞することが多いです。そのとき、1・2年次に経験をしたアルバイトやボランティア、サークル活動などの話が重要になってきます。そのため、例えば、1年次は週2日、2年次は週3日という講義の受け方をすることで課外活動に取り組む時間が生まれ、1・2年次から様々な経験を積めるようになっています。

駿河台キャンパスでは、週5日程度の授業が行われています。また、カリキュラム例にある科目に加え、刑法や労働法、人文科学系科目などの講義も順次開講され、自分の志望する試験に合わせた講義を受講することができます。さらに、試験が近づいてくると、個人の要望にあわせた面接対策や論文指導も行われるなど、充実したカリキュラムとなっています。



集中して学習できる自習スペース



専用ロッカー

# 講師陣からのメッセージ(五十音順)

## ★天田直樹先生(法律系科目担当)

「行政」は国民の代表である国会が制定した法律に基づいて行われており(法律による行政の原理)、行政に携わる職員を採用する公務員試験においては、憲法・民法・行政法を中心に、刑法・商法・労働法なども試験科目とされている場合があります。志望先をイメージして、大学の学部の講義と行政研究所の試験対策講座の両方を活用して頑張りましょう。

## ★加藤耕一先生(法律系科目担当)

求められる人になろうと努力する学生への協力は惜しみません。行政研究所の講師は、各試験に合わせた講義だけでなく、面接に必要な話す力・聞く力を身につけられるように指導することのできる頼りになる方々です。明大生であることを大いに活用して下さい。

## ★近裕一先生(行政系科目担当)

行政系科目では、政治、行政、国際関係、社会一般について、幅広い知識を学んでいきます。学習を進めるほどに知識が相互に結びつき、面白さが分かってきますので、これから一緒に頑張っていきましょう。

## ★関野喬先生(教養科目担当)

数的処理は算数とパズルを合わせた科目で教養試験の要諦です。「数」と聞き拒否反応を示した人も大丈夫。基礎から丁寧にやります。本当の意味での教養の話もできたらと思います。一緒に頑張りましょう。

## ★蜂巢旭先生(経済系科目担当)

経済学は、授業後すぐに復習をすることが肝心です。グラフを描きながら論理を理解し、計算問題に慣れれば、本試験でも安定して得点できます。一緒に頑張りましょう!

## ★平野真武先生(経済系科目担当)

現在の日本は、多くの問題を抱えています。問題を解決し、より良い社会を作り出していくことは大変なことですが、大きなやりがいがあります。社会に対する興味と熱い思いを持った学生が、行政研究所に来ることを期待しています。

## ★宮脇真理子先生(教養科目担当)

行政研究所では試験を突破するためのカリキュラムが十分に備えられています。また、現在の社会課題や解決のための方策を共に議論できるのが行政研究所の良いところです。社会のために立ち上がろうという皆さんを応援します。一緒に頑張りましょう。

## ★渡辺一郎先生(法律系科目担当)

格差のない豊かな日本、安全・安心な日本を築くという理想を実現するためには、法律案等を作成し、趣旨説明ができなければなりません。行研では、試験を確実に突破できる実力養成が目的ですが、日本を担う人材育成も目指します。一緒に、がんばりましょう!

行政研究所の講師は、各予備校のオールスターが揃っています。親身になって指導にあたる講師ばかりです。丁寧かつ熱心に教えてくれ、合格の可能性を数段引き上げてくれる心強い存在となっています。

行政研究所の室生は、このような素晴らしい講師のもとで、最大限の力を発揮することができます。

# 合格実績

過去10年間の行政研究所の合格実績と在籍者数は以下の通りとなっています。

単位：人

合格年度	国家総合職	国家一般職	地方上級	市役所	その他	合計
2014年度 55名在籍	10	8	37	5	11	71
2015年度 63名在籍	8	16	45	4	11	83
2016年度 53名在籍	8	21	39	3	20	91
2017年度 65名在籍	8	8	39	6	14	75
2018年度 83名在籍	12	21	60	9	31	133
2019年度 52名在籍	7	18	33	2	29	89
2020年度 56名在籍	8	18	30	5	17	78
2021年度 63名在籍	12	24	33	7	32	108
2022年度 65名在籍	12	23	41	3	22	101
2023年度 55名在籍	14	24	15	7	46	106

※合格者数は延べ人数

この表に記載している以外にも、昨年度は生田キャンパスの技術系公務員講座受講生16名が国家公務員総合職に合格しています。

進路は、国家公務員総合職、国家公務員一般職、都道府県庁、市区町村、国税専門官などへの就職に加え、民間就職や公共政策大学院への進学など様々です。

公務員試験の受験料は無料なので、多くの試験を併願することも可能です。しかし、そのためには併願可能な試験日程であるかの確認や、試験に合わせた個別の対応が少なからず必要であり、試験日時・内容についてしっかりと把握することが大切です。

また、各種試験においては近年の公務員制度改革の流れの中で、試験の評価方法や筆記試験の出題内容など細かい変更が年度ごとに目まぐるしく行われる傾向にあります。したがって、実際に受験する際には各自でしっかりと調べて試験に臨む必要があります。

行政研究所では、必ず公務員試験を受験しなければならないわけではなく、進路を考える途中で民間就職という道を選択する人もいます。先輩の中にも民間企業に就職している方が多数おり、先輩から話を聞いたり、エントリーシートを添削してもらったりすることができる環境にあります。

公務員試験の受験も、民間企業への就職試験においても、志望先について知ることや面接対策を行うことは非常に大切なことです。行政研究所ではこのようなフォローが充実しています。

自分の将来を真剣に考える皆さんが、未来をその手に掴む最高の環境が行政研究所です。将来の日本を背負って立つ皆さんの入室をお待ちしています。

# 募集要項

## 1. 受験資格

- ① 本学の学部生
- ② 国家公務員採用総合職試験(法律区分、経済区分、政治・国際区分、教養区分)の合格を第一志望とする者(\*受験資格②は、3年次入室試験受験者に限ります。)

## 2. 募集人数

- 1年生約100名 (新規)
- 2年生約80名 (新規+継続)
- 3年生若干名 (新規)

## 3. 入室試験 ※2024年度の入室試験実施については、決定次第明治大学ホームページ上にてお知らせします。

時期と会場	(1・2年生)	4月中旬・和泉・駿河台キャンパス
	(3年生)	2年次の3月下旬・駿河台キャンパス
受験料		1,100円(消費税込み)
試験内容	(1年生)	筆記試験
	(2・3年生)	筆記試験(1次)、面接試験(2次)

## 4. 入室ガイダンス

毎年度4月に、和泉キャンパスで、ガイダンスを行っています。日時等については、Oh-o! Meijiにて配信し、和泉キャンパスに掲示します。

駿河台キャンパスで実施する入室試験は、2月下旬に行政研究所ホームページに掲載し、Oh-o! Meijiにて配信します。

## 5. 受験申込

- 1・2年生 和泉キャンパスでの申し込み会場は、ガイダンスにて発表します。
- 3年生 個別に事務室(駿河台)で受け付けます。

## 6. 室費(年間)(消費税込み)

1年生(和泉)	在室期間(5月上旬～翌年3月31日)	66,000円
2年生(和泉)	在室期間(5月上旬～翌年3月31日)	66,000円
3年生(駿河台)	在室期間(4月1日～翌年3月31日)	132,000円
4年生(駿河台)	在室期間(4月1日～翌年卒業式)	66,000円

(\*別途、初めて入室する場合は入室登録料として5,500円がかかります。)

※募集人数や室費などについては変更する可能性があります。

各自、最新の情報は、必ず行政研究所のホームページで確認して下さい。

## 古川 智之さん

東京都

(61期・2021年3月 法学部法律学科卒業)

### 一生モノの仲間と共に

はじめまして。行政研究所61期生の古川智之と申します。私は、令和3年4月に東京都庁に入都し、建設局に配属となりました。現在は新宿区・中野区・杉並区を管轄する第三建設事務所という出先事務所にて工事や委託、物品購入の契約を担当する経理担当で仕事をしています。

私が行政研究所を知ったきっかけはまさに今皆さんが読んでいる行政研究所ガイドブックを手にとったことでした。法学部の入学手続き書類の中にあつたこのガイドブックを親が教えてくれたことが始まりだったことを思い返すと、この文章を書けることとても光栄に思います。

さて、皆さんは行政研究所と聞くとどんなイメージをお持ちでしょうか?「1・2年生からずっと勉強ばかりしている」「バイトやサークルを活動を諦めなければいけない」こんな理由で行政研究所に入ることをやめている同級生が多くいたことを思い出します。しかしこれらのイメージは全くの誤りです。私自身もサークル活動を非常に充実させていましたし、いくらでも両立は可能ですのでご安心ください。

私が考える行政研究所に入ることによる最大のメリットは、同じ目標に向かって戦う仲間をつくることができる点にあると考えます。私自身の経験を紹介させていただくと、1年生の頃に行政研究所の授業で仲良くなった友人たちは同じ東京都庁を第一志望としていました。それぞれが試験勉強に本腰を入れ始める3年生になると猿楽町の自習室に籠るだけでなく、お互いに分からない問題を教え合ったり、都庁の試験問題の出題傾向を分析し共有するなどして質の高い準備をすることができました。1次の筆記試験を通過した後はzoomで2次の面接練習を重ねました。エントリーシートに遠慮なくダメ出しをしたり、受け答えについて改善点を指摘し合ったりしました。既に自らの面接が終わったにも関わらず、翌日の試験を控える私のために最後まで練習に付き合ってくれた友人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。こうして妥協なく準備を重ねてきた私たちの掴み取った結果は全員内定でした。現在はそれぞれが異なる局・部署への配属となっていますが時々集まっては、それぞれの近況を報告し合ったり他局の情報を交換したりしています。このように試験勉強の時だけでなく、社会人になってからも続く友人を得ることができたのは私の人生におけるかけがえのない財産です。

この他にも公務員試験業界で名の知られた講師陣の皆様や過去の勉強データ・面接練習で助けとなってくださるOB・OGの皆様、そして事務室の職員の皆様といった方々が皆さんの目標達成に向けて強力なサポートをしてくださることが行政研究所の他所にはない強みだと考えております。

少しでも公務に興味のある方はぜひ行政研究所の門を叩いてみてください。そして数年後、皆さんが一生モノの仲間と共に第一志望の内定を掴み取り、後輩へ合格のバトンを引き継いでくださることを願っております。



安藤 惟さん

人事院

(62期・2022年3月 法学部法律学科卒業)

## ひとりじゃない、手厚いバックアップを受けられるのはここだけ

行政研究所62期の安藤惟と申します。令和4年4月に人事院に入庁し、現在は事務総局企画法制課で、人事院の法令関係の窓口として、他府省からの法案作成に係る協議や照会、国際条約関係の協議対応を主に行っています。人事院が所掌している法令等に影響が及ぶ可能性があるか、人事院が所掌している法令と相反する法案改正でないかなどに注目し、時には協議を行っている他府省や関係する院内の担当者とやり取りを行っています。



さて、このパンフレットを手にとっていただけているということは、少しでも国家公務員という職業に興味を持っていただいたのだと推察します。そこで微力ながら私の経験を踏まえつつ、行政研究所に入ることの利点をお伝えできればと存じます。キーワードは「仲間の存在」と「手厚いバックアップ」です。

まず、「仲間の存在」についてです。就職活動は私の経験上、周りとの戦いです。いかに周り自分とを差別化し、希望する企業に就職できるか、みなそれを考えながら周りの就活生と戦っているように見受けられます。そのため、自分を追い込みすぎてしまい、孤独感を感じることも稀ではありません。それは公務員試験においても同様で、大手予備校は公務員試験の受験生との交流が少なく、辛く厳しい試験勉強を乗り切る心の支えとなる仲間を作ることが難しいと考えます。しかし、行政研究所はメンバーがみな明治大学の学生であり、研究所の内外で仲を深める機会があります。志を共にする仲間を作る機会があることで、互いに励ましあったり、時には分からないことを教えあったりと、公務員試験に挑戦する上での心の支えを作ることができるのです。実際、筆記試験前にお互いに分からないところを教えあったり、面接シートを同期に添削してもらい自分の思いを整理したり、面接の実戦練習を同期と行い緊張をほぐしてもらったりと、自分が公務員試験に合格することができたのは、心の支えである、行政研究所の仲間の存在があったからと考えています。

次に「手厚いバックアップ」です。行政研究所は教師陣及びOBOGのバックアップが大手予備校よりも手厚いと考えます。本当に行政研究所は教師陣の質が良く、また、OBOGから、実際に官庁で働いた所感を伺ったり、官庁訪問に対するアドバイス・面接カードの添削を受けたりと、内定獲得まで途切れなくサポートしていただけます。私も最後の最後まで先生方に激励をいただいたり、OBOGの先輩方に貴重なお時間をいただいて不安な点を相談したり、面接カードを添削いただいたりと、きめ細かなサポートをいただきました。このような手厚いバックアップを受けられるのは行政研究所だけだと思います。

最後に、国家公務員の仕事に少しでも興味をもったみなさんへ、よりよい社会を創るために毎日色々な施策が考えられ、多くの法案が提出されています。国家公務員の仕事は自分の手で社会を変えることができる非常にダイナミックな仕事です。少しでも国家公務員の仕事に興味を持ったのであれば、「国家公務員」という選択肢を見据え、行政研究所の門戸を叩いてみていただければと思います。同じ志を持った仲間、教師陣、そしてOBOGがあなたを待っています。

## 鈴木 豪太さん

出入国在留管理庁(総合職採用)  
(62期・2022年3月 政治経済学部政治学科卒業)

### 明大から日本の中核へ。日本を世界の中心へ。

未来の国家総合職内定者の皆様、初めまして。行政研究所62期の鈴木豪太と申します。私は、令和4年4月に出入国在留管理庁に総合職として入庁し、現在は東京入管調査第3部門で、入国警備官として不法滞在中の外国人の調査をしております。入国警備官とは公安職であり、まさに「公共安全を守る」ための職責を担い、かつ、日々その重要度が増している大変価値のある仕事です。もちろん一筋縄ではいかない課題に直面することも多々あり、日々頭を悩ませ、ある程度リスクを背負った上で決断を強いられることも多々あります。しかしそれでも、国家公務員だからこそ携われる公共安全への貢献は、「自分が国家公務員になった意味」を感じさせてくれるものであります。ぜひ皆さんも、決して答えのない政策課題に対し、全身全霊で挑む快感を味わってほしいです。国家公務員就職の不人気騒がれる昨今ですが、それでも官僚しか成し得ない仕事の成果があります。



私は、大学に入学して初めて、行政研究所という存在を知り、「国家公務員総合職として活躍する明大生」がいるということを知りました。私は、いわゆるキャリア官僚と呼ばれる総合職は、勝手に東大・京大等の独壇場だと思っており、「まさか自分がなれるわけない」と思い、自分の可能性を狭めていました。この文を読んでいる皆さんの数少ない人も、「私が国家公務員総合職になれるわけない」と思っているのではないのでしょうか。もしそんな偏見を持っているのだとしたら、それは勿体無いと思います。私は行研に入り、実際に総合職として働かれている様々なOB・OGや、歴戦の講師陣とお話しさせていただくことで、「総合職として国家・国民のために自分の能力を発揮し活躍すること」への憧れを強めていきました。私がなぜ行研に感謝しているかということ、ただ単に自分の能力を上げてもらっただけでなく、自分の偏った価値観すら変えていただいたからです。皆さんも行政研究所の先輩に目を向け、自らと重ねることで自分の可能性を信じてください。

私はここで改めて、行政研究所に入るか悩んでいる明大生の為に、2つの行研に入るメリットを伝えさせていただきます。一つ目は、圧倒的な実績を持つ講師陣の存在です。行研の講師陣は、一言でいうと「オールスター」です。様々な予備校で勤務しているトップクラスの先生方が、行研に一堂に会しています。ただ単に科目の点数を上げるだけでなく、官庁訪問などの面接対策や、実際に官僚になった後に生きるようなアドバイスすらも出来る方々です。にもかかわらず、民間と比べて廉価な授業料を誇る行研のこの環境は、正直「異常な」ほどの好待遇です。私にとってお世話になった先生方は、現在でも飲みに行ったりと、私にとってまさに「恩師」であります。皆さんも行政研究所の先生を思う存分に頼って、自分の可能性を切り開いてください。

二つ目は、志を一つにする同期の存在です。予備校の場合、恐らく「孤軍奮闘」の戦いを強いられるでしょう。しかし、行研は違います。同じ明大生としてのバックボーンを共有し、みんなで相談し、時に愚痴り、時に励ましあい、努力できる環境が行研にはあります。今でも思い出すのが、人事院面接という対面の採用試験の前日、不安で気が動転していた私を懸命に励まし支えてくれた62期の同期への感謝です。一緒に勉強合宿をしたり、模擬面接を行ったり、みんなで祝勝会を開いたりなど、あの時の「青春」は何事にも代え難い思い出です。

最後になりますが、行研なくして今の自分はありません。ありとあらゆる可能性を広げていただきました。どうか、「国家公務員として国民生活を守り、国を豊かにする」という志を抱く明大の後輩たちが、行研の門を叩き、自分の未来を切り開くことを願ってやみません。一緒に霞が関で夢を実現するために働きましょう。応援しています。

## 長町 理恵さん

財務省税関

(64期・2024年3月 法学部法律学科卒業)

はじめまして、行政研究所64期の長町理恵と申します。このパンフレットを手にとられた皆様の中には、公務員に興味があるものごどこで試験対策をすべきか悩んでいる方も多いのではないかと思います。私自身、大学入学時にこの行政研究所のパンフレットを読み、入所を検討しました。本稿が皆様のご決断の一助になれば幸いです。

私は、小学生の頃から「将来の夢は?」という質問を受けるたびに「国家公務員」と回答しており、長く漠然と公務員を志してきました。そのため入学当初、大学内にあり、しかも他の予備校に通うよりも安く公務員試験対策ができるという行政研究所に強く惹かれ、1年次から在籍していました。実際に行政研究所に入所して、当初想定していたより多くの魅力や利点があることに気づき、公務員試験の対策をする場として行政研究所を選択してよかったと心から感じることができました。

行政研究所の魅力で特筆すべき点は3点あります。1点目は、厳選されたカリキュラムです。公務員試験の筆記試験は多数の教科の対策が必要で、また各教科につき勉強すべき範囲が広いことが特徴的です。行政研究所では、先生方が試験の傾向分析を踏まえて頻出の単元、覚えるべきポイント、受験年に狙われやすい分野を的確に教えてくださるため、効率的に学習を進めていくことができます。2点目は、同じ志をもつ友人たちと出会えることです。行政研究所には、全員明大生である点と公務員試験合格という共通の目標を持つ点から生じる、唯一無二の一体感があります。互いの勉強の進捗状況を伝えあって刺激し合うだけでなく、苦手な分野は教え合い、不安なことは相談して慰め合い、時には情報交換をすることのできる環境の中、みんなで支え合ってみんなで合格しようという雰囲気があります。3点目は、充実したフォローアップ体制です。公務員試験は、筆記試験で終わりではなく、民間企業の就活と同様に、面接で自分を評価してもらう必要があります。面接では大学時代までの自分の体験や、自分の性格を踏まえて、どうしてそこで働きたいのか、自分を採用するメリットはどこにあるのかなどを聞かれるため、言語化して話せるように準備しておく必要があります。行政研究所では、先生方が生徒一人一人に時間をかけて向き合い、どういう考えを持っていてどんな経験をもっているのか会話の中から掘り起こし、自分をアピールする方法を一緒に考えてくださいます。また、様々な場所で活躍されているOB・OGの方々を多数輩出しており、先輩方のご厚意により、体験談を伺い、助言を頂ける機会もあるなど、困っているときに手を差し伸べてくださる方が多くいらっしゃいます。

このように行政研究所は、学生を合格・内定に導くシステムが充実しており、安心して公務員試験に挑むことができる場を提供してくれます。少しでも興味を持たれた方は、ぜひガイダンスに参加して、行政研究所の雰囲気を肌で感じ、入所を一つの選択肢に加えていただけると幸いです。

皆様が将来、輝かしい結果を手にするのを心よりお祈り申し上げます。



## 山元 里紗さん

特別区(江東区)

(64期・2024年3月 法学部法律学科卒業)

### 夢への一歩に

みなさん、初めまして。この度特別区から内定をいただきました、行政研究所64期の山元里紗と申します。

私は、高校生の頃から公務員になることを漠然と夢見ていました。大学入学後にどの外部の予備校に通うか迷っていた私は、このパンフレットを見て行政研究所に入所することを決め、夢をかなえることができました。これを見てくださった方に少しでも行政研究所の魅力をお伝えできればと思います。

私が思う最も魅力的な点は、大学の授業に合わせたスケジュールが立てられていることだと思います。大学の試験期間は行政研究所の講義は休講になるなど、大学とうまく両立ができるような設定がなされています。

大学1年次・2年次は、大学生活を優先的に送ることが想定されたカリキュラム設定がされており、大学の授業はもちろん、サークルや課外活動、アルバイトなどに力を注ぐことができます。私自身もアルバイトを複数経験したり、学外活動を中心にしていました。面接の際にはこの2年間の経験を材料にすることができました。また合同の授業を受けるため1年次にすべての講義を受けられなくても、2年次に新たに学ぶことができます。私は2年次から行政研究所に入所しましたが、勉強が本格化する3年次の授業に十分に対応することができました。対面の授業に出席できない場合は、配信の授業が提供されるのでうまく活用して勉強を進めることができます。自分のペースに沿ってカリキュラムを組み立てることができるのが行政研究所の魅力の一つです。

また行政研究所は、法学部だけではなく他学部からの学生ももちろん在籍するため、試験勉強をするだけでなく幅広い交友関係を築くことができます。コロナ禍に入学した私にとって、同じ夢を持った他学生との交流は非常に刺激のある時間でした。試験情報を共有したり、講義内容について話し合ったりすることができ、長期的な戦いとなる公務員試験を乗り越えるための一つの大きな原動力になったと思います。

筆記対策だけでなく面接対策も手厚く指導していただけます。経験豊富な先生方に1対1で指導していただくことで、本番の面接でも自信をもって臨むことができます。また、多くのOGOBが残してくださった資料を見ることもできるので、試験のイメージがしやすい環境があったことも力になりました。

最後となりますが、ぜひ多くの方に、公務員を目指す方はもちろん、まだ迷っている方もまずは行政研究所の門をたたいてみてほしいと思います。そしてみなさんが、理想の未来を築くことができることを祈っております。



# 国家試験指導センター 行政研究所

HP [https://www.meiji.ac.jp/netsc/admin\\_lab/index.html](https://www.meiji.ac.jp/netsc/admin_lab/index.html)

## 駿河台本室

TEL.03-3296-4420

〒101-0064

東京都千代田区神田猿楽町2-4-1

明治大学猿楽町第一校舎1階

E-mail : [gyoken@cmm.meiji.ac.jp](mailto:gyoken@cmm.meiji.ac.jp)

### 【開室時間】

平日 9:30~18:00

土曜日 9:30~13:00



## 和泉分室

TEL.03-5300-1448

〒168-8555

東京都杉並区永福1-9-1

和泉リエゾン棟2階

E-mail : [izgyosei@cmm.meiji.ac.jp](mailto:izgyosei@cmm.meiji.ac.jp)

### 【開室時間】

平日 10:00~18:00

(土曜日 閉室)

